

XR

特集

— XR エコシステム形成に向けたドコモの取組み —

XR (Extended Reality) は、高臨場感や双方向性により新たな価値の提供が可能となる技術として注目されており、NTT グループでも共通 XR 事業ブランド「NTT XR」を掲げ、グループ各社でさまざまな取組みを行っている。その中でもドコモでは、リアル空間とサイバー空間とを融合させ、距離や時間を超越した XR による空間価値の向上を目指し、顧客接点を確保する「①フロント・ポータル」、高精度位置情報によるデジタルツインを整備する「②空間プラットフォーム」、コンテンツの作成・権利保護の「③3D コンテンツ」、多様なユーザーニーズに応える「④デバイス・UI」という4つの戦略によるエコシステム形成の取組みを行っている。

今回の NTT DOCOMO テクニカル・ジャーナルの特集では、ドコモの XR に関するさまざまな取組みの一部として、「①フロント・ポータル」としてのオンラインイベントソリューションである“VEP (Virtual Event Platform)”や「②空間プラットフォーム」である“AR 開発パッケージ”、「③3D コンテンツ」の作成・編集などを行う“NTT XR Studio”について紹介する。また、XR による空間価値の向上に関する検証として“バーチャル銀座”についても紹介する。

(編集部)

- 「いつでもどこでも」イベント参加可能なプラットフォームの開発 7
- 空間に紐付く AR サービスをワンストップで開発可能な空間 AR 開発パッケージ 15
- XR コンテンツの撮影・編集・配信向けスタジオ「NTT XR Studio」 21
- 都市空間データセットを活用したバーチャル銀座の開発 27